

令和5年度 市民と市長の対話集会

市長と語ろう！ほっとミーティング

開催結果報告書

- 1 開催日時 令和6年（2024年）1月15日（月）
午後1時30分から3時まで
- 2 開催場所 市役所519会議室
- 3 参加者 公立・民間保育所の保育士10人
- 4 テーマ 保育のスマート化により、働きやすい職場
を目指して



5. 市長あいさつ

こんにちは。平塚市長の落合です。今日は、「市長と語ろう！ほっとミーティング」に参加いただき誠にありがとうございます。市民の皆様の声聞くのはとても大切であり、私が市長に就任した平成23年から、様々な分野の方々にお話を聞いてきました。皆様の率直な意見を聞いて、政策や街の魅力アップに役立てていこうと思っていますので、今日はよろしくお願ひします。

今回は、市内の保育所から10人の保育士の皆様に集まっていただきました。皆様には子どもたちのお世話をするだけでなく、行事の準備、保護者とのコミュニケーション等の多様なお仕事をしながら、未来を担う子どもたちの健全な育成にお力添えをいただいています。心から感謝を申し上げます。皆様の職業は、幼い子どもたちの人生の出発点に関わる大切な役割を担っていると思っています。現在、少子高齢化で子どもの数がどんどん減っています。昭和57、58年頃が一番多かったのですが、そこから比べると、今は半減しています。働き方改革や夫婦共働き家庭の増加、コロナ禍での働き方の多様化のため、保育というニーズが大変高まっているのは事実です。子どもは未来を担う地域の宝だと思っていますので、子どもへの投資、子育て支援への投資は、持続可能な平塚のまちづくりを進めるための成長戦略と捉えています。この確かな未来を築くために、引き続き、しっかりと子育て支援に力を入れていきたいと思っています。これまで保育に携わる皆様への支援として、市外から転入した保育士を対象とする就職促進貸付金、居住地の制限なく支給している就労支援交付金、奨学金を返済している人を対象とする奨学金返済支援補助金、この三つの支援を中心に据えて、保育士確保の取組を進めてきました。保育現場においては、マンパワーが大変重要です。デジタル技術を活用して、保育の交流・省力化・高度化・効率化を進め、働きやすい職場を作ってもらうことで、保育の質を更に高めていきたいと考えています。

本日は皆様の経験から、保育の負担軽減や質の向上など、率直な御意見をいただき、政策に反映できるものがあれば、しっかりと反映させていきたいと思っています。どうぞよろしくお願ひします。

6. 主なミーティング内容

【司会】

今日は、保育士の皆様の現状、特にICT導入による事務作業等の省力化、高度化などを進めることによる保育現場の負担軽減、質の向上についての話

し合いを行います。皆様には、日頃感じている声を市長に聞いていただく貴重な機会ですので、中身の濃い対話集会にしていきたいと思います。初めに、自己紹介から進めていきます。お名前、保育園の名称、仕事内容のほか、個人的な趣味等も添えて、お願いしたいと思います。

【参加者】

趣味はガーデニングです。バラが好きなので、鉢植えでバラを栽培しています。主任をしていますので、園の事務作業と人手の足りないクラスのお手伝い、園長のサポートをしています。

【参加者】

主任保育士をしています。この保育園で12年、他で2年勤務しており、主任としては7年目になります。結婚して10年で子どもが3人おり、年長と2歳児、0歳児です。私の勤務する法人内には、保育所が4園あります。これまで、3つの園を回って主任の仕事をしており、4人の園長から様々なことを教えていただきました。仕事内容としては保育のほかに、休みの先生の代わりや、保育指導、開放保育、一時預かりの取りまとめをしています。ほかにも、実習生の受け入れと指導を担当しています。

【参加者】

主任保育士という役割で仕事をしており、園長のサポート、保育現場のサポート、保護者の対応のほか、事務作業、書類作成、実習生の受け入れを担当しています。趣味はスポーツ観戦です。野球が大好きなので観に行ってもストレスを解消しています。最近ストレッチ教室に通い出しました。

【参加者】

趣味で、和太鼓と合唱を長く続けています。保育園は、地域の中でも文化が発信されていく場所だと思います。趣味を生かして子どもたちや保護者と和太鼓を演奏したり、合唱したりしています。文化を通して、人と人がつながり高め合える、そういう仲間づくりができればよいと思い、仕事の中でも大切にしています。今回のICTに関しては、これから導入検討という状況なので、皆様のお話を参考にしたいと思います。

【参加者】

主任をしており、コロナ禍に始めた未就園児教室の担当をしています。つどいの広場すくすくという名前で、週に1回ではありますが、近隣の0歳から2歳までのお子さんと保護者に遊びに来てもらい、そこで、保育士と様々な話ができる場を作っています。開放保育も行っているのです、そこに来られ

た方に声を掛けるなど、保護者支援、子育て支援に力を入れています。また、園長のサポートとして、園や園長の考えを噛み砕いて保育士に伝えています。若い先生たちも仕事がしやすく、楽しく保育できる園になるようにと思って仕事をしています。娘が3人いますが、2人は成人しています。趣味は、Kポップのライブとサッカー観戦です。

【参加者】

5歳児の担任をしており、17人の子どもたちと一緒に生活をしています。支援の必要な園児が2人いるので、担任2人で保育しています。今は就学に向けて、小学校と連携を図りながら仕事をしています。また、卒園式に向けていろいろと準備を進めているところです。保育士になって7年目になります。異動もあり、現在勤務する園には3年勤めています。体を動かすことが好きで、今もスポーツジムに行っています。忙しい時はなかなか行けませんが、子どもたちと一緒に遊ぶことを楽しんでいます。

【参加者】

1歳児を担当しています。今年で勤続20年になりました。プライベートでは子どもが3人おり、小学生と年中の保育園児2人の母です。保育園児の2人が女の子でとてもディズニーが好きなので、子どものおかげでディズニーに少し詳しくなりました。今年は、配慮が必要なお子さんに対してどのように関わっていくかという研究会に参加しています。とても学ぶことが多く、保育園で実践していけるように、また、先生たちにアドバイスできるように勉強しています。

【参加者】

異動してから2年目で、その前までは港こども園に勤務していました。ここに来てから主任になりました。各クラスの様子も見ながら、園の運営がうまくいくように努めています。趣味は、ベルマーレが大好きで、サポート歴30年位です。ほかにも、草花が好きで子どもたちと草花で遊んだり食べられるものを発見したりしています。虫も大好きなので、この前の夏には、子どもと一緒に蟬の抜け殻を箱に100匹ぐらい並べて楽しみました。

【参加者】

2歳児の担当をしており、元気いっぱいの男の子たち11人のクラスを担当しています。平塚市に勤務して13年目、今の園に来て3年目になります。すごく自然豊かなところで、お散歩では、河原の方へ出かけることもあります。今日も土手で転がりながら遊んで来ました。若い先生も多い園なので、クラスの担任以外にも別の仕事があります。趣味は、スノーボードです。社

会人になってからの趣味ですが、好きなことを見つけるのは、とてもよいことだと思います。子どもたちにも、そんなことを伝えていければと思っています。

【参加者】

3歳児、20人の担当をしています。2月初めの発表会に向けて、楽しく取り組んでいる最中です。今日もステージの上で、遊んで踊ってきました。保育士として、平塚市に勤務して7年目です。障がい児施設で働いていた経験もあります。今年度から、公立保育所のICT化の会議にも出席しており、今日のテーマがICT化ということで、選ばれたのだと思います。手紙を書くことがすごく好きで、年間200通ぐらい書きます。遠方にいる友達やお誕生日の友達などに書くことが好きで、これからも続けたいと思っています。

【司会】

皆様ありがとうございました。本題に入っていきたいと思います。まずは各園におけるICTの導入事例、活用事例のお話をしていきたいと思います。港こども園の現状について御報告いただいて、その後、導入している園の現状をリレートークのように伺っていきたいと思います。

【参加者】

平塚市の公立5園は、ほぼ同じ進め方だと思いますので代表してお話させていただきます。ICT化としてタブレットが、令和5年の秋から全園へ支給されました。12月からは登降園時間の管理を開始しました。保護者に、自分の携帯電話で登降園の記録をしてもらっているというのが現状です。2月から月案、週案をiPadで作成、3月から日誌の作成、4月からは乳児の食事の状況や、保護者とのやりとりも、紙を使わずに行うことを目標に、徐々に進めているところです。ほかにも欠席の連絡などに使っていますが、私たちの業務は、まだまだ手書きの方が多いため、今日は他の園の様子を聞かせていただければと思います。

【参加者】

当園では、ICT化補助金を活用し、パソコンを購入したり、園支援ソフトを導入したりしてICT化を始めました。最初は、既存の書類をそのまま、そのソフトに取り込んで作成するという形でした。パソコンがクラスに1台だと複数担任の場合、そのうちの1人しか作業できないため、あまり効率化にはならないスタートでした。その後、2021年からコードモンというシステムの導入やタブレットを増やし、個人のスマホを併用することにより、ウェブ上で皆が自由に入力することができるようになりました。現状ではWi

ー F i 環境も良くなり効率化といえる状況になっています。パソコンを2017年から増やしましたが、年数の経過により、開くのに時間がかかったり、途中で止まったりして効率が悪いので、直近の課題としては機器の更新だと思えます。指導案、保護者との連絡、0歳と1歳児の連絡帳は全てシステムで行っているため、時間の短縮になり、話し合いの時間等が取れるようになりました。休憩時間の確保が難しかったのですが、現在ではしっかり取れるようになり、保育士同士のコミュニケーションも増えたことで、保育の質の向上にとつながついていると思えます。

【参加者】

2017年から保育のミカタというシステムを導入して、週案、月案などを作れるようにしました。同時に、iPadを導入して各クラスで作業できるようにしたのですが、そこで大変だったことはWi-Fi問題です。また、使い方が難しかったということもあり、2020年にシステムを更新しています。法人全体で同じ書類をデータで管理するようになりましたが、実際は、書類を様式として保存しているだけなので、そこからダウンロードして手書きで作成することがずっと続いていました。2021年の2月に、コドモンというアプリを導入してからICT化が大分進みました。今は登降園の管理と、保護者の方からの出欠席の連絡をアプリでお願いしています。電話が不要になり、朝の忙しい時間が減っています。保育園に関わるお金の請求も、このシステムで口座登録しているため、お金の直接のやり取りがなくなり、事務作業の効率化につながっています。また、写真の販売、保護者への配付物、他のお知らせの配信にも使っています。子どもたちの書類の作成にまでは至っていないので、どうやってこれから活用していくかが法人全体での課題です。また、保育士たちに現状について聞いたところ、パソコンの台数、iPadの台数が限られているという意見がありました。勤務時間内に少し保育から外れられる時間があっても、限られているパソコンを使いたい職員が重複してしまうことが多く、持ち帰り仕事になってしまうなど、不公平が生じるということがあります。また、そのパソコンやiPadも古くなるので、更新のお金がどうしても必要になってきます。あとは、単純にパソコンがまだ苦手という職員がいるので、そこは慣れが必要になってきます。実際のところ書類が減るかということ、書いている書類は減りません。スマート化は進みますし、今後も進めていかないとはいけません。ICT化とは別の話題になりますが、人手が欲しいのが正直なところです。人手が足りることで、事務所で仕事ができる時間を皆が順番に確保できればいいと思います。保育の質の向上に向けてはそこが必要だと思います。

【参加者】

私たちの法人では、ソフトを2種類活用しています。一つは、コードモンを導入し、もう一つは別のものを併用しています。ICT化に関しては、当園は20年ほど前から徐々に進めています。登降園チェックや、指導案の作成、児童票などをシステムで管理しています。指導計画に関しては、システムを活用することで経験の差に関係なく、保育にあたることができるという利点があります。登降園のチェックも、保護者の方が入室用のカード持って来て、それを登園の時に玄関にかざすと、システムに登園や降園のチェックが入るようになっていきます。園舎の入り口が自動ドアなので、カードをかざすことで自動ドアが開くようになっており、セキュリティ面とも連動しています。

ここ数年で導入したコードモンは、配布物をできるだけペーパーレスにすることに利用しています。行事のアンケート調査もできるので、行事のときの出欠席やドキュメンテーションの配信などにも利用しています。急遽、休園になった時の連絡も、コードモンで配信しています。以前はパソコンの台数が少なく、先生たちが取り合うということがありましたが、現状では、各クラスに1台、必ず配備されています。また、事務室内にも数台あるので、職員が順番に作業ができる環境になっています。ICT化によって、書類作成の所要時間は大きく短縮され、補助金によって台数が増えたことで効率よくできるようになり、とても感謝しています。課題としては、やはり勤務時間内に職員が保育の現場を離れて、書類やお便りの作成にどれだけ時間を確保できるかというところですね。ICT化は進んではいるものの、お昼寝の時間や、非常勤の先生や短時間勤務の先生を頼りに事務作業に取り組んでいるのが現状です。ICT化により所要時間としての負担は減っていますが、事務作業の時間をどこで確保するかという課題が残っています。

【参加者】

日誌や年間スケジュールはパソコンで作成していますが、コードモンなどのソフトは導入していません。

【参加者】

タブレットやパソコンは補助金をいただいた時から導入しています。出欠席の打刻は毎朝タブレットで保護者の方にさせていただき、職員の出欠席もコードモンで行っています。月案や週案、指導案要録などは、タブレットやパソコンで行っています。やはりパソコン待ちが出てしまい、せっかく合間の時間ができても使用できずに戻っていく職員がいます。

こども園では、タブレットが1クラスに1台ないという状況で、乳児の保護者との連絡ノートは、今でも手書きです。保護者に朝書いてきてもらい、そこに午睡中に書き込んでいます。日々の日誌も手書きで書いており、午睡チェックも手書きです。園長からもタブレットを買ってICT化ができるの

かという話がよく出るのですが、職員が何人かいるのに、タブレットを1台買って、それで仕事が効率的にできるかということ、一気に手書きでやってしまった方が早いという意見もあります。タブレットも1クラスに何台もあればできますが、急にそれができるのかという問題もあります。補助金をいただけて本当にありがたかったのですが、買い替えの時期もあり、同時に壊れてくるので、補助金を毎年など、もう少しいただけると、買い替えもしやすいという意見がありました。

保護者の方への連絡やお便りは、私が若い頃は手書きで書いて300人分ぐらい印刷し、ホチキス止めをするという時代でしたが、それに比べたら、一斉送信ができるようになったので本当に速くなりました。園支援を導入し、タブレットで子どもの写真や動画を撮って、それを保護者の方に送っています。毎月1回はクラスから送りますが、日々の保育の様子などは園長が園支援で配信をしています。当園も持ち帰り仕事ゼロを目指しているのですが、なかなかそのようにいかないのが現状です。持ち帰り仕事をしている職員もまだ多いです。私もそうですが、終わらなかつたので持ち帰りでやろうと思っても、疲れてしまって、なかなかできないというのが現状です。持ち帰り仕事ゼロにできれば、もっと先生たちの負担は減ると思います。当園はこども園で、1号認定のお子さんもいるので、幼稚園機能を使っているお子さんがおり、利用するバスの運行もあります。バスの数だけの添乗員が必要で、パートの方もいるのですが、クラス担任も乗らないと回らない状況です。全員が帰ってくるまでに時間差があるので、職員が皆集まるのが難しい現状もあります。また、保育士不足に関してですが、保育士は、昔はなりたい職業の上位にいたと思います。しかし、最近は若い方が保育士になりたいと思わない時代になっていると思います。実際に聞いた話では、高校の先生に、保育士になりたいと言った学生さんが、「大変だよ。もっと楽で給料がよい仕事あるよ。」と言われたそうです。私は、すごく楽しいし、やりがいのある、とても立派な仕事だと思って誇りを持っているのですが、そのように見られてしまっていて、とてもショックでした。

様々な研修を受けていますが、講師の方が、日本はまだ「保育士イコール子守」というのが抜けていないと言っていました。その根本的な問題が解決されない限り、難しいと思う部分もあります。今回、お話の場を設けていただき、ICT化を進めていただいて、保育士の負担軽減を市でも考えてくださっているのは本当にありがたいことです。実際、保育士を増やすことが絶対必要なので、この先大丈夫だろうかと心配しています。

【司会】

ICT化の現状と保育の働き方の現状までお話しいただきありがとうございます。今導入をされている園の方からの御意見をまとめていくと、やは

り事務処理の負担が少し減ってきていること、導入することによってお金の管理もできるようになるなど非常に良くなってきている一方で、パソコンの台数であるとか、いわゆるハード面では、まだまだ課題があるということです。どちらかという民間側の方が少し進んでいて、公立はこれからということですが、お話を聞いてどのような感想を持ったか、一言二言いただいでから、現状について市長に御意見をいただきたいと思ひます。

【参加者】

やはり台数のところでは、公立でも各園、各クラスにタブレットが1台ずつ配布されていますが、使いたい時間が重複して作業できないとなると、その時間をいつ作ればいいのかという問題は、先ほど皆さんもお話していたとおりです。4月から日案、周案、月案など、様々な書類をタブレットで作成することになります。パソコンが不得手な人は、練習する時間がなかなか取れない状況の中で、この4月からのスタートにすごく不安があります。練習の時間の確保がとても大事ではないかと思ひました。しかし、手紙を印刷して配付する手間などが全部タブレット上でできるようになるのは、すごくメリットなのではないかと思ひます。

【参加者】

同じように、i P a dをいただいで練習をしながら、保育士で使い方の話し合いをしているところです。私が勤務する園は特に電波が悪く、W i - F iも導入されていないため、せつかく部屋で使う機器をいただいでいますが、電波がよい部屋を探す必要があり、もったいないと感じています。電波の状況やi P a dの台数という問題が解消されれば、手書き時間を見つねながらやっている状況を緩和できるのではないかと思ひます。

【司会】

今、導入をされている園の方々の現状と課題、それから4月から正式に取り組む園、それぞれの御意見を伺ひました。市長の方からコメントいただければと思ひます。

【市長】

これから社会全体が目指すべきものの中で、進めなければいけないものが、やはりD XとG Xです。働き手不足や、働き方改革の中で、デジタル化やI C T化を進めることによって効率的にサービスを提供できるような社会づくりが進められることになりました。国からの補助金を使って具体的な動きをしていただき、本当ありがたいと思ひています。特に保育は、将来を担う子どもたちを育てていただく、そのスタートのところでは、お話を伺ひてい

ると書類作成や事務が多いと感じます。その辺りの仕組みも含めて、これから効率化を進めていく中で、ICT化をすることが目的ではなく、これを手段として使っていただきながら、特に、人と人の関わり合いが深い保育・教育に時間をかけていただける環境を整備することが市の責任だと思っています。

また、具体の課題や取組をお伺いしました。課題については担当課で検討し、子どもたちによりよい保育が提供できるよう努めます。そして、保育士の配置です。いくらICT化が進んでも、やはり人です。私もそう思います。しかし私の立場としては、民間の皆さんのお力をお借りして、しっかりサービスを提供していくという行革の視点を持つ必要があります。そもそも皆様の税金をいただいて行政サービスを展開していますので、その行政サービスを効率よく進めるためには、何から何まで公立でしなければいけない時代ではなくなってきました。民間の力と活力を借りて、しっかりと生活しやすい環境づくりをしていきたいと思っています。そういう視点があるということも、お含み置きいただければありがたいと思います。

【司会】

ありがとうございました。皆さんのお話を聞いて、ICT化が導入されることによって、少しずつですけれども事務作業の負担軽減が進んでいることを実感しました。ICT化は手段ですが、実際にそれを使ってどのように保育の質を向上するか、あるいは働きやすい職場を作っていくかということが、おそらく一番重要なことではないかと思います。保育の質の向上に向けて、何かこういったことができたらいいのではないかという御意見がありましたら伺いたいと思います。

【参加者】

質の向上については、1日、2日でどうにかなることではないと思います。先ほどもICT化の際に、保育に代わって入れる人がいないという話を聞いて、やはり人は大事だと思います。私が短大を卒業して保育に就職して今も仕事を続けている友達が何人いるかという、私だけです。仲良くしていた友人が8人いて、幼稚園や保育園に就職しました。結婚や出産で、どうしてもキャリアが切れてしまう場合があります。若い人に保育士になってもらいたいというのもそうですが、仕事が続けられる環境を作っていくことがとても大事だと思っています。私は運よく産休や育休を取りながらここまで仕事を続けてこられました。中にはやりたくてもなかなか難しい環境の友達もいたので、とてももったいないと思っています。何がネックになるかというと、早番や遅番などの当番勤務の時間に保育園は開所していないため、自分の子どもを預けたくても預けられない状況です。そうすると第3、第4の手

が必要になります。夫婦だけで子育てを頑張っている人たちが、保育の現場には戻りづらいというのが、現状としてあると思います。少し違う視点になりますが、もしそういう方たちが、子育てを終えて、また現場に戻ってきてくれたらよいのと思ったことがありました。そういう人材が働けるように、勤務時間など見直せたらよりよいと思います。

【参加者】

私もそこが一番の問題だと思います。私も民間で1年働いてから、もう一度公立保育園を受け直し、今に至っています。やはり公立保育園は、育児休業が3年しっかり取れる状況が整っています。また、若い先生から、ベテランの先生まで、育ち合い学び合いをしています。その保育士の育ち合いが今、少し、崩れていると思います。ベテランの人と若い人との中間の層の先生がかなり抜けています。

今は保育士の人数が足りていても、職員の育休のことなどを考えると、保育士が余るということはありません。毎年保育士の補充をお願いしていますが、よい先生が揃っているのだから、その中で頑張ってもらいたい、といった形で終わってしまいます。また、8月に幼保一元化に関する公立保育園の見直しということで、最終的には4地域を拠点にするということですが、公立保育園の中には4地域というところに疑問を持っている保育士もいます。土屋や吉沢地区は子どもが減少しているのに、どうしてそこに新しいこども園を作ろうとしているのかが疑問です。子どもが減少しているのは理解していますが、その中で市民が預けやすい、通いやすい拠点というのは、地図上の地点ではなくて、その子どもの今後のあり方をもとに考えた方が保護者のためにもなりますし、子どものためにもなると思います。車の免許を取る方も少ないため、吉沢地区にこども園を作ってどうやって通わせるのか分かりません。支援が必要な子どもが増えているため、インクルーシブな施設にすると考えると、そういう子たちを長い時間バスに乗せて通園することが、保護者にとっても大変なことではないかと思います。市長の年頭の挨拶で、子育て支援に引き続き注力するという言葉には、とても安心してうれしく思っていますが、安心して子育てができるようにハード面からだけでなく、人の気持ちや、子どものためを考えて進めていただきたいと思います。

【参加者】

私の勤務する園は、公立のこども園なので複雑です。1号児は人数が少なく、1クラスに4人ぐらいで、15人のうち2、3人が1号児のような状況です。すごくバランスが悪く、ほぼ2号児です。それに合わせて働くというのがとても難しいですが、続けていかないといけないと思っています。支援が必要な子が1号児でも増えています。子どもが多い分、保育士も多くなけ

ればいけないのですが、不足しているのが現状です。年度後半になるにつれてどんどん産休や育休に入っていくため、当番のない日がないほどです。

年休が欲しくても代わりの人はどうするのかとか、人がいないから午前中だけは来てなど、自由に取得できない状況です。皆さんも同じかと思うのですが、休暇や休息も私たちの働くためのモチベーションになっています。その意味でも人の確保をしていただければと思います。

【参加者】

負担軽減を考えると、やはり人だと思えます。休暇の申し出に対しては了承しますが、人のやり繰りとなると、結局ぎりぎりです。今日は、このクラスの休みが多く、職員が少なくて済んだから何とか回ったけれど、ぎりぎりの人数ということもあります。いつもそのクラスに入らない職員が入るという状況は、保育の質で考えると疑問です。サボりたくて人手が欲しいということではなく、働きやすく、お互いを尊重し合ってやりたいことができるような、それぞれが自分の持っているものを出していけるような職場がよいと思うので、人手が欲しいです。あとは続けやすいということ。まだまだ女性の職場なので、戻ってきて欲しい先生は多くいますが、そのまま辞めてしまうかもしれないというのは、民間保育所にとっては大きな課題だなと思います。

7. 市長によるまとめ

ありがとうございます。本音のところをお話いただきました。それぞれ現場で、御苦労されているのが本当によく分かります。我々自治体は、例えばICT化するにも、それだけやれば、うまくいくだらうという感覚を持ちがちですが、そうではなく、皆様にこういう場所で具体的なお話を聞いて、いくつかでも政策に反映できれば、それは皆様の働きやすさや子どもたちの保育の質の向上につながると思いました。平塚市の子ども・子育ての中心的な役割を担っていただいている皆様が、働きやすく、かつ、子どもたちに向ける時間をしっかり取っていただけるような環境づくりを進めていく必要があることを改めて感じました。本当に今日は、ありがとうございます。また先ほど、質の向上のお話がありました。どのようにすれば保育士さんに戻って来ていただけるのかということが課題になると思います。昨日、保育士の配置基準についての記事が日本経済新聞にありました。保育士1人が受け持つ子どもの数は、4、5歳児で今30人です。それを25人にするということでした。それによって、負担が軽減され、必要な保育士の人数が増えて業務が軽くなり、100万人くらいと言われている潜在保育士に、また戻

って来てもらえるような環境にしようという趣旨です。平塚市は、御存知のように1歳児については国基準で6対1のところを4対1にしており、その部分については、ずっと取り組ませていただいています。神奈川県でも保育人数の見直しを計画しているようですが、計画しても早く実施してもらわないと困るので、毎年神奈川県にも要望書を出しています。また、平塚市独自の子ども・子育ての予算についても、しっかりと考えていかななくてはならないと思っています。私が市長に就任してすぐ、平成23年、24年当時から、子ども・子育ては大切であり、将来的に平塚市を担うのは子どもたちだということで、子ども・子育て推進会議ICT化を作ったり、基金を作ったりして取り組んでいます。このような取組によって転入者数が増えています。令和4年は、転出者数と転入者数を見ると1,676人増えました。去年はもっと増えて、1年間で2,688人増えました。それも高齢者の方たちだけでなく、若い世代の方たちの転入もかなりありましたので、子ども・子育てについて、平塚市を評価して転入してくれているのだと思います。平塚市で子育てしたいと言ってもらっても、それが実際に動いていかないといけません。保育環境の向上については、しっかりと取り組んでいきたいと思っています。今回、保育士の配置も含めて、どこまでできるかということはありませんが、是非とも考えていきたいと思っています。これは少し本題から離れてしまうのですが、去年の子ども・子育て施策で、12月から中学生まで無料だった医療費を高校生まで拡充しました。また、今年9月に、中学校の完全給食が始まります。生まれてから社会人になるまで平塚の子どもたちが、この平塚で住みやすい、教育も保育も受けやすいという環境づくりをしていくのが、私の役目だと思っています。皆様の御意見を伺いながら進めていきたいと思っていますので、よろしくお願ひします。今日はありがとうございました。